

# 数学五輪代表に 清水東高峰岸君



世界の中高生の精鋭が難問に挑む国際数学オリンピック(I.M.O.)に清水東高峰岸君(藤枝市瀬古)の写真を日本

## 県内高校から初出場

代表の1人として出場する。今年7月にオランダで開かれる。同校などによると、県内の高校からの出場は初という。大学受験レベルの数学は中学時代に習得し、今はさまざまな理論の数学書を愛読する「天才肌」の17歳は「100カ国以上から集まる高校生との交流が楽しみです」と大舞台に自然体で臨む。

幼い時に「3歳上の姉の教科書をのぞいていた」が、いつ数学好きになったかは思い出せない。参考書や問題集などで学ぶうち、中学卒業時には難関大の2次試験問題でも、解けないものは見当たらなくなっていた。「のめり込みやすいタイプ」。一時は化学に熱中し、高1でいきなり「全国高校化学クラブ」金賞に輝いたことも。普段の授業は「複雑な計算を省く方法を考えた」り、もっとエレガントな解答を意図的に探したりして楽しむ。同校の数学教諭は「学校のテストは100点まで。(実力はもっとなのに)それ

## 7月「世界の高校生と交流」

しか取れなくて悔しいんじゃないか」と舌を巻く。I.M.O.は証明問題を中心に4時間半で3問を解く。これを2日続けて計6問。峰岸君は「理論の本質が分からないと解けない。定理の機能や役割を熟知し、論証する能力が問われる」と心得る。3月に昨年に続く再挑戦となった国内最終選考合宿でついに勝ち、代表権を得た。全国の私立高生が名を連ねる日本代表6人のうち都道府県立高の選手は峰岸君だけ。清水東高の松田寿久副校長は「本当にすごい。わが校にとって大変な名誉」とたたえる。